

労働市場における社会的排除の影響

平成 17 年度入学
文学部人文学科人間科学コース
社会学・地域福祉社会学

平成 21 年 1 月提出

要約

私たちが生きていくうえで必要なものはなんだろうか。必要なだけの食料や衣類、怪我・病気になったとき受ける医療サービス、生活の基盤になる住居、十分に暮らせるだけの所得、社会で暮らしていくのに必要な教育、周囲の人々とのコミュニケーション...このほかにもさまざまな条件がある。しかし、これらの条件が何らかの原因によって欠けてしまったり、十分なものでなかったりすることがある。生きていくうえでの足場がもろく崩れやすくなり、ついにはなくなってしまう。「社会的排除」とはさまざまな不利な条件が積み重なっていくことによって、その人が社会の中で生き辛くなってしまいう過程と結果の両方を示している。

本論では、この「社会的排除」の視点から非正規雇用者の抱える問題を「労働市場からの部分的な排除」と捉え、社会的排除を引き起こしうるのかについて論じている。

1章では、社会的排除とはどんな概念であるのかについてまとめた。この言葉は欧州で大量の若者や移民層が失業したことを背景に、政策側から提唱されて広まったものである。社会的排除を引き起こす重要な要因として「労働市場からの排除（失業）」が据えられているが、それほど失業率の高くない日本においてはむしろ「労働市場からの部分的な排除（非正規雇用）」の方が妥当ではないかと私は考え、非正規雇用で働くことが社会的排除につながる可能性を検討することにした。

2章では、日本でバブル経済が崩壊し、「失われた10年」と呼ばれた深刻なデフレ不況を経験した後、労働市場がどのような変遷を経てきたのかについて追った。日本社会にも「ポスト工業化社会」と「グローバル資本主義」が浸透すると、企業は競争力を高めるために必要に応じて使うことのできる「柔軟な労働力」を求めて労働市場の二重構造化が進んでいった。その結果、就業に制限があるが一定の確実性と満足のいく（と思われる）労働条件を提供する仕事と、一方で就業は比較的簡単だが仕事の不確実で、賃金が低く、しかもスキルアップが難しい仕事とに分かれてしまった。

3章では、ホームレスや母子家庭、ネットカフェ難民の社会的排除の状態に陥っている人々が労働市場にどのような形でかかわっているのかについてみていった。その結果、労働市場からの排除が社会的排除の引き金になるケースもあったが、逆に早期から社会的排除状態にあった人々が労働市場からも排除されるケースもあることがわかった。

4章では、本論を通じて発見した「社会的排除が人々を労働市場から排除する」側面が、非正規雇用者に対する「自己責任論」によるバッシングに対する反論の一例になりうるのではないかと述べて、本論をとじている。

目次

はじめに	1
第1章 社会的排除とは	2
第1節 社会的排除の小史	2
1、福祉社会による貧困問題の縮小	
2、「新しい貧困」の登場	
3、社会的排除・社会的包摂の登場	
第2節 社会的排除の特徴とその意義	4
1、あらゆる不利の積み重ねが社会的排除を生む	
2、社会への参加の不足	
3、質の問題	
4、貧困と社会的排除の違い	
第3節 労働と社会的排除の関係	7
第2章 労働市場の現在	9
第1節 非正規雇用への流れ	9
1、日本の雇用慣行	
2、労働法制の再編	
3、現在の状況	
第2節 非正規雇用者とは	11
1、パート、アルバイト、契約社員	
2、派遣労働者	
3、請負労働者	
第3節 正規雇用と非正規雇用の相違点	15
1、賃金の格差	
2、有期雇用契約	
3、企業福祉	
第4節 労働市場からの「部分的な」排除	18
第3章 不利な立場で働く人々	20
第1節 路上のホームレス	21
1、「ホームレス」の定義	
2、どのようにして路上にきたのか	
3、ホームレスと社会への参加	

第2節	母子家庭(シングルマザー)・・・・・・・・・・・・・・・・	24
第3節	ネットカフェ難民(「ネットカフェ生活者」)・・・・・・・・	25
第4章	総括・・・・・・・・・・・・・・・・	27
第1節	社会的排除の結果としておきる労働からの排除	
第2節	自己責任論への反論	
おわりに	・・・・・・・・・・・・・・・・	28
参考文献・URL	・・・・・・・・・・・・・・・・	29